土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

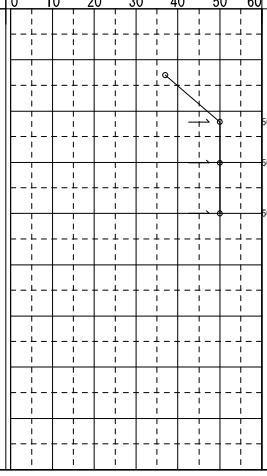
調査名	後山川通常砂防事業に伴う業務委託
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor-5	調査位置	広島県福山市鞆町後地	北緯	34° 23' 08.4143"
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 4月 3日～ 令和2年 4月 8日	東経	132° 22' 38.2619"
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 55.18m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 270°西 90°東 180°南
総削孔長	4.00m	地盤勾配	34° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦地下工機　D-0 / エンジン：ヤンマー　NFD13 / ポンプ：東邦地下工機　BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
	54.78	0.40		礫混り砂質土		暗褐			未固結の礫混り砂質土。 径5～40mm前後の亜角礫主体。 表層0.4mは腐植土が優勢。	
1	54.18	1.00		礫混り砂質土		褐				
				流紋岩		黄褐灰			流紋岩の風化部。 半固結した礫状コアで採取。 深度方向へ次第に固結する。	
2	53.18	2.00		流紋岩		灰			流紋岩(軟岩～中硬岩)。 コア長5～20cm前後の短柱状コア主体で採取。 亀裂間に土砂を挟む。 岩片硬質を呈するが、潜在亀裂が発達する。	
3										
4	51.18	4.00								
5										
6										
7										
8										
9										

標準貫入試験

深度―N値図



N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
37	1.15	9	11	17	37/300		
	1.45						
50以上	2.15	29	21		50/120	120	
	2.27		20				
50以上	3.00	50			50/20	20	
	3.02	20					
50以上	4.00	貫入不能			50/0	0	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				4/6